

# 社会資本総合整備計画書

宮城県内における都市の発展を鉄道の連続立体交差により支える社会資本整備

【事後評価】

宮 城 県

平成 28 年 3月

社会資本総合整備計画（道路事業） 事後評価書

平成28年3月1日

計画の名称	20 宮城県内における都市の発展を鉄道の連続立体交差により支える社会資本整備									
計画の期間	平成22年度～平成26年度（5年間）			交付対象	宮城県					
計画の目標	・宮城県における都市機能の改善、物流、交通結節点、観光拠点へのアクセス強化と円滑化について、鉄道の連続立体交差により都市の発展を支援する社会資本整備を行う。									
計画の成果目標（定量的指標）	・踏切交通遮断量の減少率									
定量的指標の定義及び算定式						定量的指標の現況値及び目標値		備考		
						当初現況値 (H22当初)	中間目標値 (H24末)	最終目標値 (H26末)		
① 踏切交通遮断量の減少率 (%)	踏切交通遮断量の減少率 = $\Sigma$ (事業前踏切交通遮断量 - 事業後踏切交通遮断量) / $\Sigma$ 事業前踏切交通遮断量					0.0%	100.0%	100.0%		
全体事業費	合計 (A+B+C)	3,519百万円	A	3,474百万円	B	百万円	C	45百万円	効果促進事業費の割合 $C / (A+B+C)$	1.3%

事後評価（中間評価）

○事後評価（中間評価）の実施体制、実施時期	
事後評価（中間評価）の実施体制	事後評価（中間評価）の実施時期
宮城県事業担当課において、数値目標の達成状況や事業効果の発現状況を検証した。	平成28年3月
	公表の方法
	宮城県のホームページ

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業																	
A1 道路事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	道路種別	省略 工種	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
											H22	H23	H24	H25	H26		
20-A1	街路	一般	県	直接	県	S街路	改築	仙石線	改築 L=1.8km	多賀城市						3,474	
											小計（道路事業）					3,474	
A2 港湾事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	港湾種別	省略 工種	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積・水深等)	港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
											H22	H23	H24	H25	H26		
											小計（港湾事業）						
											合計						
B 関連社会資本整備事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	省略 工種	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考	
										H22	H23	H24	H25	H26			
											合計						
番号	一体的に実施することにより期待される効果												備考				

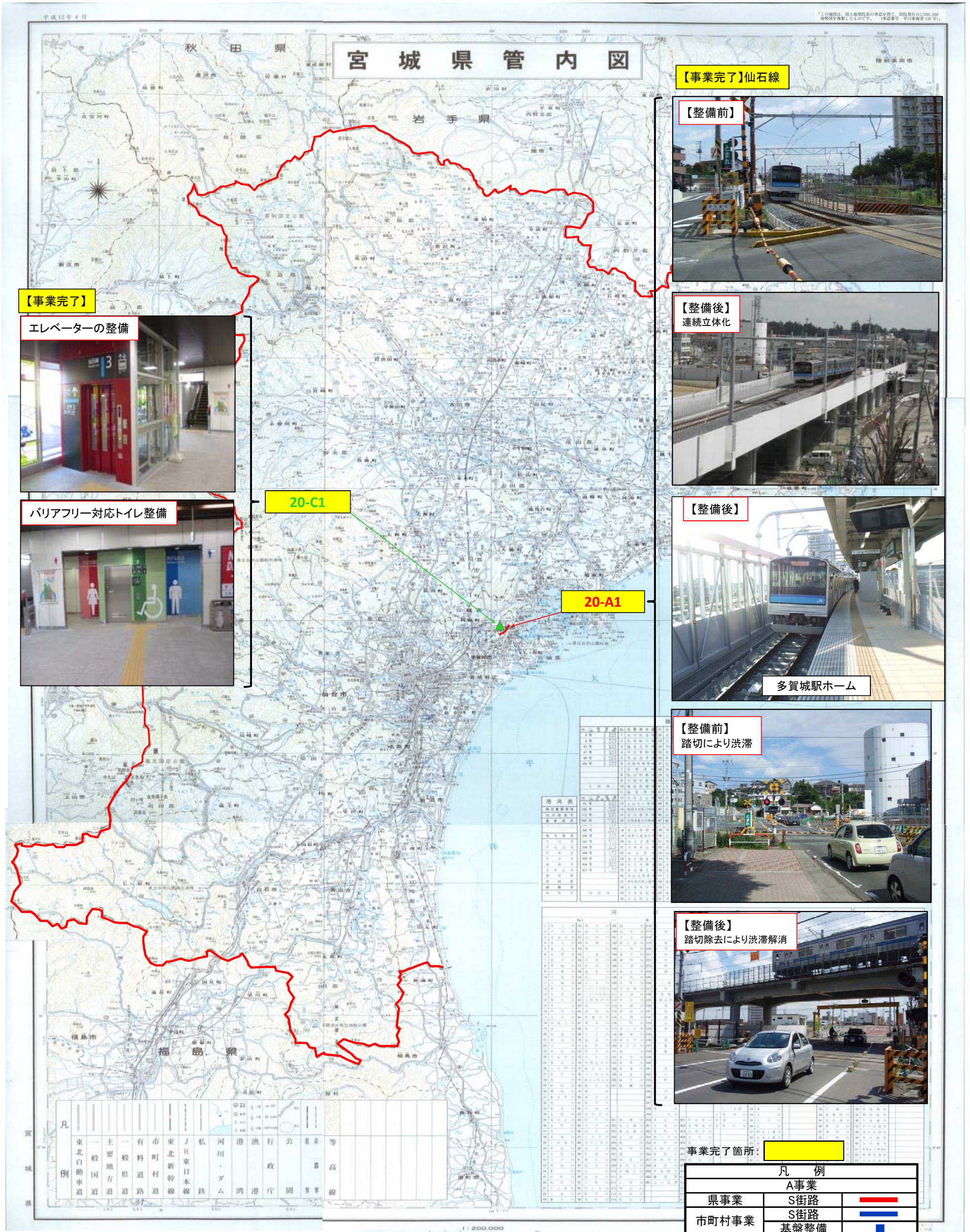
C 効果促進事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接/間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考	
										H22	H23	H24	H25	H26			
20-C1	施設整備	一般	県	直接	県	バリアフリー整備	多賀城駅周辺バリアフリー整備	バリアフリー施設整備	多賀城市						45		
										合計					45		
番号	一体的に実施することにより期待される効果																備考
20-C1	IR仙石線多賀城駅付近連続立体交差事業と併せて、多賀城駅周辺のバリアフリー化を行い、交通結節点としての利便性が向上する。																

※交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況						
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		東日本大震災により、一時工事を中断したものの、鉄道の連続立体化を遅延なく進め、踏切での交通遮断の解消が図られた。				
II 定量的指標の達成状況	指標①踏切交通遮断量の減少 (減少率%)	最終目標値	100%	目標値と実績値 に差が出た要因		
		最終実績値	100%			
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)		4箇所の踏切除去により都市内交通の渋滞緩和及び、分断されていた市街地の一体化による都市の活性化が図られた。また、障害者や高齢者の方々が利用する施設等(トイレ・エレベーター等)をバリアフリー化するなどしたことから、車椅子の方でも円滑に移動等が可能となり、快適に駅を利用して頂くことができた。				
3. 特記事項 (今後の方針等)						
<p>今後は、適切な施設の維持管理に努め、良好な交通環境及び施設機能を保ち、都市の発展を支える。</p>						



計画の名称	20 宮城県内における都市の発展を鉄道の連続立体交差により支える社会資本整備		1 県
計画の期間	平成22年度 ~ 平成26年度 (5年間)	交付対象	宮城県



事業完了箇所:  

凡 例		
A事業		
県事業	S街路	
市町村事業	S街路	
基礎整備		
C事業		
県事業	緑地整備	
	区画整理	
	バリアフリー	